

悪魔の貸付制度

臨時貸付制度。今回でもう三回目ですね。低額回答の度にまとわりついてくるため、もはやその「臨時」の入った名称には胡散臭さしか感じません。社員が生きていくために必要なローンの支払い等を「借金」でカバーするよう勧めるなど狂気の沙汰としか言えないのですが、わが社はいつから消費者金融事業に手を出すようになったのか。

無利子だから良心的？説明するのも馬鹿らしいですが、この貸付金の返済は、月例賃金から引き落とされるため、毎月の生活に必要な最低限の経費としての資産価値を考えた場合、ボーナス払いで利息を支払うこと以上の負担を強いられるわけだから、安易に飛びつくのは自縄自縛というものです。

とある若手社員は、他の企業に勤める知人から言われたそうです。

社員に貸し付けるお金があるってことは、それをボーナスとしてそのまま支給することも出来るわけでしょう？これって「労働の対価」が「負債」にすり替えられているってことだよな？とんでもないね。JRってこんなにブラックなの？

すごい会社ですよな。

そういえば昔、何かの時代劇で悪名高い殿様が村人からお金を巻き上げ、恩着せがましくお金を貸し付けているような場面を見たことがあります。わが社がしていることはまさにこれと同じ。会社を信用してローンを組んだ社員はもちろん、わが社を信用してお金を貸した金融機関までも裏切っているようなもので、反社会的とも言えます。

職場では「毎月の給料で貸付金の返済をするのはキツイから、せめて退職金から引き落として欲しい」といった切実な声も上がっています。ごもつとも。しかし、根本的なことを言うと、会社は過去に業績が好調だったときは「ボーナスは業績連動ではなく安定供給が基本である」という口実で社員に相当額を支払わず据え置いてきました。要するに、会社が社員に「借り」がある状態。だとしたら、コロナ禍で業績が悪くなり、百歩譲って一時的に低額回答せざるを得なかったとしても、ローンがある者には特別支給を行い、その他は今まで支払われるべきだった額を分割して毎月の賃金に少しづつ「上乘せ」する形で「借り」を返していくのが筋というものです。いま会社がやっていることは、人前で胸を張って言えることでしょうか？